

2025年度（2025年4月～2026年3月）

特別勘定の現況

決算のお知らせ

特別勘定名	基本資産配分比率		運用方針	投資信託名
ライフ プロデュース 30	世界株式	30%	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。 基本資産配分は、株式30%、債券70%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンド
	世界債券	70%		外国株式インデックスファンドVA(適格機関投資家専用)
ライフ プロデュース 50	世界株式	50%	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。 基本資産配分は、株式50%、債券50%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンド
	世界債券	50%		外国株式インデックスファンドVA(適格機関投資家専用)
ライフ プロデュース 70	世界株式	70%	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。 基本資産配分は、株式70%、債券30%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンド
	世界債券	30%		外国株式インデックスファンドVA(適格機関投資家専用)
特別勘定名		運用方針		
ライフプロデュース 日本株式		セクション・ジャパン・エクイティ に主に投資することを基本とします。		
ライフプロデュース 世界株式		アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンド(基本資産配分比率:70%)と外国株式インデックスファンドVA(適格機関投資家専用)(基本資産配分比率:30%)に主に投資することを基本とします。		
ライフプロデュース 世界債券		アクサ・グローバル・ボンド に主に投資することを基本とします。		

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

*1 「リバランス」とは、当初決定した資産配分比率に調整することをいいます。

※ 特別勘定・投資信託変更のお知らせは、P5をご参照ください。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要／注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。(*金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。)
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・ 投資信託に関するデータは、投資信託の委託会社による運用報告を、そのまま掲載しております。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。



本商品は、アクサ生命保険株式会社を引受保険会社とする生命保険商品です。預金ではありません。
そのため、預金とは異なり元本保証はありません。

【日本株式市場】

年度末のTOPIX(東証株価指数)は前年度末比+31.56%の3,497.86ポイント(前年度末2,658.73ポイント)となりました。AI(人工知能)需要拡大を背景にハイテク・半導体関連株が堅調に推移したことに加え、高市新政権発足を受けた景気刺激策に対する期待が高まったことなどから、日本株式市場は上昇基調となり、2月にはTOPIXが史上最高値を更新しました。一方、年度末にかけては、中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格上昇によるインフレ再燃懸念や、企業業績への警戒感などから急落する局面も見られましたが、年間を通じては上昇となり年度末を迎えました。

【外国株式市場】

米国株式市場では、年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比+10.33%の46,341.51ドル(前年度末42,001.76ドル)となりました。AI需要拡大を背景としてハイテク・半導体関連株が堅調に推移したことに加え、FRB(連邦準備制度理事会)により9月から3回の利下げが実施されたことから、米国株式市場は上昇しました。2026年に入ると大手半導体銘柄の決算を受けて、大手ハイテク銘柄を中心に上値の重い展開となり、さらに年度末にかけては中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格上昇によるインフレ再燃懸念から下落しました。年間を通じては上昇となり年度末を迎えました。

欧州株式市場では、前年度末比で独DAX指数は+2.33%、仏CAC40指数は+0.34%となりました。NATO(北大西洋条約機構)加盟国による防衛費拡大への期待や、米国株式市場に連れた動きを背景に上昇しました。一方、年度末にかけては、中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格上昇によるインフレ再燃懸念が高まり、ECB(欧州中央銀行)による金融引き締め観測も意識されて下落しましたが、年間を通じて両指数ともに上昇して年度末を迎えました。特にフランス株式市場は、期中の政局の不透明感や年間を通じたラグジュアリー関連株等の軟調さが重石となり、上昇局面では上値の重い展開となりました。

【日本債券市場】

10年国債の金利は上昇(価格は下落)し、年度末には2.354%(前年度末1.490%)となりました。高市新政権発足を受けた財政拡張への懸念や、12月に日銀による利上げが実施されたことを背景に、金利は上昇基調で推移しました。年度末にかけては、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格上昇によるインフレ再燃懸念も加わり、金利は上昇基調を維持したまま年度末を迎えました。

【外国債券市場】

米国債券市場では、10年国債の金利は上昇(価格は下落)し、年度末には4.317%(前年度末4.205%)となりました。FRBにより9月から3回の利下げが実施されたことを背景に、金利は概ね低下基調で推移しました。一方、年度末にかけては、中東情勢緊迫化に伴う原油価格上昇を背景にインフレ再燃懸念が高まり、2026年内の追加利下げ観測が後退したことから、金利は上昇基調に転じて年度末を迎えました。

欧州債券市場では、独10年国債の金利は上昇(価格は下落)し、年度末には3.004%(前年度末2.738%)となりました。ECBは年度初に昨年度から継続している利下げをしたものの、金融緩和サイクルの終了が示唆されたことや、防衛費増大等の財政支出拡大への懸念から、金利は上昇基調となりました。年度末にかけても、中東情勢の緊迫化を背景としたインフレ再燃懸念や利上げ観測が意識され、金利は上昇基調のまま年度末を迎えました。

【外国為替市場】

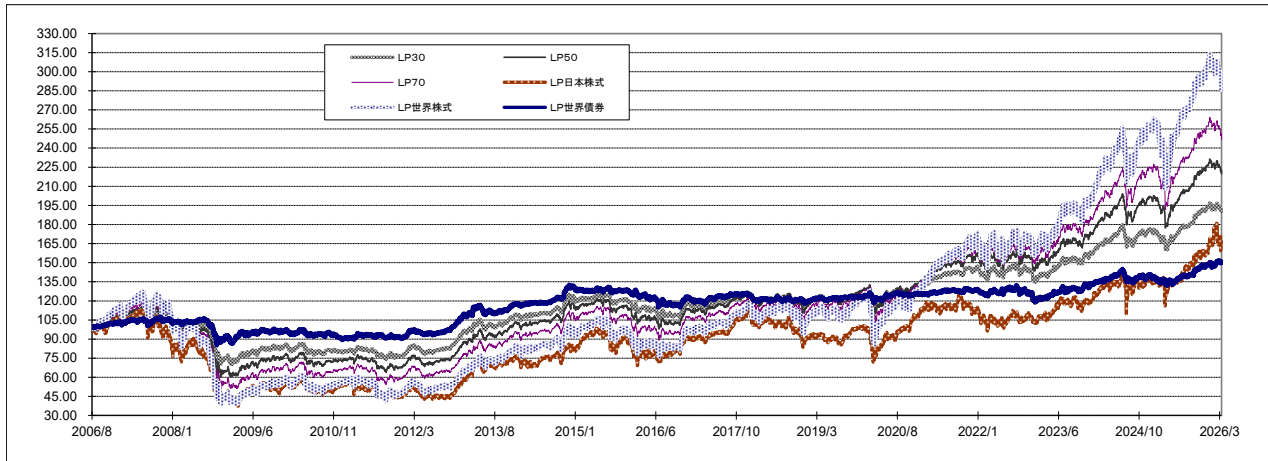
米ドル/円相場は、年度末には前年度末比+10.36円の159.88円(前年度末149.52円)となりました。年度初には米政権のドル安政策への警戒感等から一時円高に進む場面が見られましたが、高市新政権発足を受けた財政拡張懸念を背景に円安が進み、米ドル高・円安基調となりました。その後、日米協調介入の思惑から円高に振れる場面もありましたが、中東情勢緊迫化に伴う原油価格上昇を背景にインフレ再燃懸念が高まり、FRBによる追加利下げ観測の後退を受けて米金利が上昇したことから、米ドル高・円安で推移し年度末を迎えました。

ユーロ/円相場は、年度末には前年度末比+21.33円の183.41円(前年度末162.08円)となりました。年度初にECBは利下げを実施したものの、金融緩和サイクルの終了が示唆されたことに加え、米国では利下げ観測が意識されたことから、ユーロ高が進みました。また、高市新政権発足を受けた財政拡張への懸念を背景に円安が進み、期を通じてユーロ高・円安で推移しました。

特別勘定の運用状況 [2026年3月末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



		ライフプロデュース 30	ライフプロデュース 50	ライフプロデュース 70	ライフプロデュース 日本株式	ライフプロデュース 世界株式	ライフプロデュース 世界債券
ユニ ット プ ラ イ ス	2026年3月末	190.32	219.77	246.87	165.44	285.99	150.27
	2025年12月末	193.46	226.34	257.30	157.30	303.77	148.47
	2025年9月末	182.28	211.83	239.44	149.23	280.06	141.22
	2025年6月末	174.21	199.86	223.12	138.22	256.04	137.65
	2025年3月末	169.67	192.65	213.25	132.38	241.56	136.49
騰 落 率 (%)	2024年12月末	176.41	201.74	224.72	139.08	257.16	140.53
	1ヵ月	△ 2.96	△ 4.30	△ 5.49	△ 8.53	△ 7.37	△ 0.04
	3ヵ月	△ 1.62	△ 2.90	△ 4.05	5.18	△ 5.85	1.21
	6ヵ月	4.41	3.74	3.10	10.86	2.12	6.41
	1年	12.17	14.07	15.76	24.97	18.39	10.09
	3年	33.74	43.82	54.42	51.31	69.71	20.86
	(年率)	10.18	12.88	15.58	14.80	19.28	6.52
	設定来	90.33	119.77	146.87	65.45	186.00	50.28
	(年率)	3.34	4.10	4.72	2.60	5.51	2.10

※ 特別勘定のユニットプライスは、2006年8月30日のプライスを100.00として計算しています。

※ 騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース30			ライフプロデュース50			ライフプロデュース70		
	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)
現預金・その他	22,526	0.6	—	114,550	0.3	—	163,611	0.5	—
その他有価証券	3,525,524	99.4	100.0	36,968,923	99.7	100.0	29,758,678	99.5	100.0
世界株式	1,005,013	28.3	30.0	18,320,961	49.4	50.0	20,561,467	68.7	70.0
世界債券	2,520,511	71.0	70.0	18,647,962	50.3	50.0	9,197,211	30.7	30.0
合計	3,548,051	100.0	100.0	37,083,474	100.0	100.0	29,922,290	100.0	100.0

項目	ライフプロデュース日本株式		ライフプロデュース世界株式		ライフプロデュース世界債券	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	58,367	1.1	442,811	0.5	64,461	1.0
その他有価証券	5,345,822	98.9	82,343,521	99.5	6,325,581	99.0
合計	5,404,190	100.0	82,786,333	100.0	6,390,042	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定の運用状況 [2026年3月末日現在]

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	ライフプロデュース 30	ライフプロデュース 50	ライフプロデュース 70	ライフプロデュース 日本株式	ライフプロデュース 世界株式	ライフプロデュース 世界債券
	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
利息配当金収入	—	1,645	—	—	—	—
有価証券売却益	301,887	2,276,260	1,125,973	1,253,783	184,920	681,998
有価証券評価益	170,879	3,071,224	3,422,677	—	12,503,881	3,108
有価証券償還益	—	—	—	—	—	—
為替差益	—	—	—	—	—	—
その他収益	—	—	—	—	—	—
有価証券売却損	2,194	16,851	14,551	383	—	1,154
有価証券評価損	36,769	272,037	133,813	119,177	—	39,088
有価証券償還損	—	—	—	—	—	—
為替差損	—	—	—	—	—	—
その他費用及び損失	—	—	—	—	—	—
収支差計	433,802	5,060,240	4,400,285	1,134,223	12,688,801	644,863

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等はP.3をご参照願います。

■ライフプロデュース30

全ての資産がプラスに寄与しました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

■ライフプロデュース50

全ての資産がプラスに寄与しました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

■ライフプロデュース70

全ての資産がプラスに寄与しました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

■ライフプロデュース日本株式

当年度の日本株式市場は、マクロ経済の追い風、企業改革、堅調な企業業績、さらには高市首相の成長志向政策への期待感に支えられ、歴史的な上昇を経験しました。米中貿易摩擦の懸念後退やエレクトロニクスおよびエンターテインメントセクターの牽引により市場は上昇し、日米貿易関係の改善、政治的安定、AI成長への期待がその勢いを加速させました。2025年末には、セクターローテーションと日銀の利上げ(円安要因)に支えられ大幅に上昇しました。しかし、2026年初頭には、イラン周辺での地政学的緊張激化やサプライチェーンの混乱により上昇は急停止しました。製造業の下方リスクが高まり、経済見通しは地政学・サプライチェーンの懸念により不透明となりました。引き続きセクション・ジャパン・エクイティへの投資を行う方針です。

■ライフプロデュース世界株式

全ての資産がプラスに寄与しました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

■ライフプロデュース世界債券

2026年2月のファンド設定来の世界債券市場は、中東情勢などの地政学的リスクと、それに伴うインフレ懸念(エネルギー価格上昇)により、利回りが急上昇(債券価格は下落)し、激しく変動しました。引き続きアクサ・グローバル・ボンドへの投資を行う方針です。

《参考情報》 利用する投資信託 [2026年3月末日現在]

投資信託名	セレクション・ジャパン・エクイティ						Selection Japan Equity Class I	
委託会社	アーキタス・マルチマネージャー・ヨーロッパ・リミテッド						Architas Multi-Manager Europe Limited	
運用方針	積極的な分散投資のポートフォリオによる長期的な元本の増大を目的として運用を行います。純資産価額の3分の2以上を、日本を本拠地とする、または日本の規制市場で上場、値付けもしくは取引されている株式に投資することにより、その目的を達成することを目指します。（委託会社は本ファンドの運用について野村アセットマネジメントを副投資マネージャーに任命しました。） *当投資信託は、円建アイルランド籍外国投資信託です。							
騰落率(%)		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来	ベンチマークは設定しておりません。 ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2021年4月21日）を起点として計算しています。
	投資信託	△12.75	2.46	15.71	36.43	76.25	85.81	
投資信託名	アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンド						AXA Capital Global Equity Class I	
委託会社	アーキタス・マルチマネージャー・ヨーロッパ・リミテッド						Architas Multi-Manager Europe Limited	
運用方針	純資産価額の3分の2以上を、世界の規制市場で上場、値付けもしくは取引されている株式に投資することにより、積極的な分散投資のポートフォリオによる長期的な元本の増大を目的として運用を行います。（委託会社は本ファンドの運用についてキャピタル・インターナショナル・マネジメント・カンパニーSARLを副投資マネージャーに任命しました。） *当投資信託は、円建アイルランド籍外国投資信託です。							
騰落率(%)		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来	ベンチマークは設定しておりません。 ※設定来の騰落率は、変更前の投資信託の設定日（2016年12月9日）を起点として計算しています。 ※投資信託の構造を見直し、運用報酬の引下げを行うことでご契約者の利便性を高めるための投資信託の変更を行いました。そのため騰落率につきまして、2021年10月26日までは、変更前の「キャピタル世界株式ファンドVA（適格機関投資家用）」の基準価額に、2021年10月27日以降は、「アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンド」のファンド価格に基づいて計測された数値を表示しています。
	投資信託	△6.63	△4.96	3.52	23.52	78.04	303.74	

《参考情報》 利用する投資信託 [2026年3月末日現在]

投資信託名	外国株式インデックスファンドVA(適格機関投資家専用)						
委託会社	大和アセットマネジメント株式会社						
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除く先進国の株式に投資を行い、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ※当投資信託は、主として外国株式インデックスマザーファンド受益証券に投資します。						
騰落率(%)		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
	投資信託	△6.10	△4.81	4.35	23.76	-	40.79
	BM	△6.13	△4.84	4.29	23.67	-	40.50
	差	0.03	0.03	0.06	0.09	-	0.29
ベンチマーク(BM):MSCIコクサイ・インデックス(税引後配当込み、円ベース) ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2024年2月15日)の前日を起点として計算しています。							
投資信託名	アクサ・グローバル・ボンド						
委託会社	アーキタス・マルチマネージャー・ヨーロッパ・リミテッド						
運用方針	主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)に分散投資を行うことで、キャピタルリターンとインカムリターンの両面から、中長期的なトータルリターンの提供を目指した運用を行います。(委託会社は本ファンドの運用についてコルチェスター・グローバル・インベスターズ・リミテッドを副投資マネージャーに任命しました。) *当投資信託は、円建アイルランド籍外国投資信託です。						
騰落率(%)		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
	投資信託	△1.62	-	-	-	-	△0.45
	BM	△1.34	-	-	-	-	△0.09
	差	△0.28	-	-	-	-	△0.35
ベンチマーク(BM):FTSE世界国債インデックス(円ベース) ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2026年2月9日)を起点として計算しています。							

＜お知らせ＞

投資信託「アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンド」の信託報酬率の下限が、2025年5月1日から以下の通り引き下げられました。上限は変更ありません。

変更前: 年率0.74300%～0.77300%

変更後: 年率0.72300%～0.77300%

特別勘定の運用関係費の引下げおよび運用収益の向上を目的として、2026年3月以降に投資信託を以下の通り変更いたします。

特別勘定の運用方針の変更はありません。

●特別勘定: ライフプロデュース30、ライフプロデュース50、ライフプロデュース70、ライフプロデュース世界債券

投資信託: 「適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1」から「アクサ・グローバル・ボンド」へ変更

特別勘定の運用関係費

ライフプロデュース30: 0.56540%程度から0.47237%～0.48287%程度へ変更

ライフプロデュース50: 0.56100%程度から0.48729%～0.50479%程度へ変更

ライフプロデュース70: 0.55660%程度から0.50221%～0.52671%程度へ変更

ライフプロデュース世界債券: 0.57200%程度から0.45000%程度へ変更

●特別勘定: ライフプロデュース日本株式

投資信託: 「適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンドー1」から「セレクション・ジャパン・エクイティ」へ変更

特別勘定の運用関係費: 0.90200%程度から0.82600%程度へ変更

●特別勘定: ライフプロデュース世界債券

投資信託の入替に伴い解約中の「適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1」に僅かに組入れが残っておりますが、2026年4月中に償還されます。

当保険商品のリスク・諸費用①

⚠ 投資リスクについて

- この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額保険です。
- 特別勘定資産の運用には、資産配分リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、カントリー・リスク、流動性リスク、為替リスク、派生商品取引のリスクなどがあります。これらのリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
- ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。(払いもどし金額および満期保険金額に最低保証はありません。)
- 特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待どおりでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

⚠ 諸費用について

お客様にご負担いただく費用は、危険保険料、各保険契約管理費、および運用関係費の合計額となります。

<第1回の年金のお支払事由発生前にかかる費用>

項目	費用	備考
危険保険料	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に、危険保険料率を乗じた金額	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(保険料比例部分) *契約日が2013年10月1日以前のご契約者様	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 3.00%	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(保険料比例部分) *契約日が2013年10月2日以降のご契約者様	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 5.00%	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(定額部分)	毎月250円(固定費)	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。 (当月分の費用を当月末に積立金から控除します。)
保険契約管理費(危険保険金額比例部分)	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に対し、 0.01%/月	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。 (日々の危険保険金額の平均にもとづく当月分の費用を当月末に積立金から控除します。)
保険契約管理費(積立金額比例部分)	積立金額に対し、 年率1.00% (1.00%/365日を乗じた金額)	毎日、積立金から控除します。

※ 危険保険料は、危険保険金額が積立金額の変動などによって変動するため、費用の発生前に具体的な金額を記載することが困難であり、表示することはできません。

また、危険保険料率は、被保険者の年齢、性別によって異なります。詳しくは、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

- 毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額が1,000万円を超える場合、保険契約管理費(危険保険金額比例部分)に高額割引制度が適用され費用が少なくなります。ただし、基本年金額の減額や積立金額の増加などにより、危険保険金額が1,000万円以下となった場合には、高額割引は適用されなくなります。

当保険商品のリスク・諸費用②

＜積立金の移転や解約などにかかる費用＞

項目	時期	費用	備考
積立金移転費用	積立金の移転時	【書面による移転申込みの場合】 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき2,300円 ^(*)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。
		【インターネットによる移転申込みの場合】 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき800円 ^(*)	
解約控除	解約時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%～1%を乗じた金額)と危険保険金に対する解約控除額(危険保険金に解約控除率0.50%～0.05%を乗じた金額)の合計額	解約日のご契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切上げ)に応じて、積立金に対する解約控除額(10%～1%)と危険保険金に対する解約控除額(0.50%～0.05%)の合計額を解約日の翌営業日の積立金額から控除します。
	積立金の一部引出時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%～1%を乗じた金額)	一部引出日のご契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数に応じて計算した金額を、一部引出請求金額から控除します。

(*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行った回数

※ 積立金移転時は、その際必要となる移転費用の2倍相当額以上の積立金残高が必要です。

※ 解約控除の詳細については、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

※ 基本年金年額の減額、ご契約の型の変更、保険期間の短縮の際にも、危険保険金額の減額により、危険保険金額に対する解約控除が適用される場合があります。

※ 将来、前記の内容が変更になることがあります。

●運用関係の費用

●運用関係の費用				
項目	時期	費用	備考	
運用関係費	毎日	ライフプロデュース30	年率0.47237%～0.48287%程度*1	投資信託の純資産額に対して、 毎日積立金から控除します。
		ライフプロデュース50	年率0.48729%～0.50479%程度*1	
		ライフプロデュース70	年率0.50221%～0.52671%程度*1	
		ライフプロデュース日本株式	年率0.82600%程度	
		ライフプロデュース世界株式	年率0.52458%～0.55958%程度*1	
		ライフプロデュース世界債券	年率0.45000%程度	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の消費税等がかかる場合はそれらを含む総額の信託報酬率を記載しています。

信託報酬のほか、信託事務の諸費用など、有価証券の売買委託手数料および消費税などの税金などの諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量などによって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動などの理由により、将来変更される可能性があります。

※ 「ライフプロデュース30」「ライフプロデュース50」「ライフプロデュース70」「ライフプロデュース世界株式」の運用関係費は、主な投資対象である投資信託の信託報酬率を基本資産配分比率で加重平均した概算値です。各投資信託の信託報酬率はそれぞれ異なりますので、各投資信託の価格の変動などに伴う実際の配分比率の変動により、運用関係費も若干変動します。

* 1 アクサ・キャピタル・グローバル・エクイティ・ファンドの信託報酬率は年率0.72300%～0.77300%で、投資しているシェアクラスの日次の純資産額に応じた信託報酬率が適用されます。

＜第1回の年金のお支払事由発生以後にかかる費用＞

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1.0%*	年金支払開始日以後、 年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

* 記載の費用は上限です。年金管理費は、将来変更となる可能性があります。